

法匠会報

法政大学工学部 建築学科 同窓会会報

デザイン工学部・建築学科 全学年市ヶ谷に集合 建築学科と同窓会



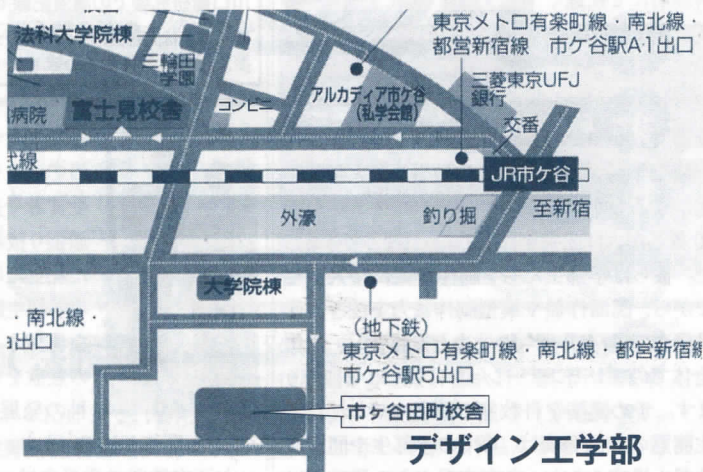
われわれ卒業母体の建築学科は10年4月新学期より市ヶ谷田町校舎に全学年が揃います。

3年前にデザイン工学部建築学科が開設し市ヶ谷キャンパスに1年生入学。2年から4年生は小金井校舎で活動し卒業。その時期市ヶ谷田町校舎は改修中（元設計大江宏先生）で、本校教室を間借りしてスタート。学生をあずかる先生方が市ヶ谷と小金井の間で大変ご苦労されたこととお聞きしています。そして本年4月市ヶ谷に大学院が改めて開設され、デザイン工学部建築学科は市ヶ谷田町校舎を拠点として進取の気性を発揮してゆく年になります。

さて建築同窓会は現在工学部同窓会に所属しています。学部組織として工学部は理工学部に移行し建築学科はデザイン工学部に所属しました。大学は生き残りの中で教学改革としてこれからも生き残り戦略

を展開すると思います。小金井校舎には現在、情報科学部のほかに生命科学部、理工学部ができました。そこで現工学部同窓会の行方として名称は別として理工学・生命科学・情報科学・デザイン工学の4学部トータルな同窓会として生まれ変わろうとしています。

岡本 眞（'70卒）



同窓会会費について

現在工学部同窓会の学科組織として傘下に建築同窓会はいます。デザイン工学部建築学科に大学組織は変わりましたが同窓会はそれにとらわれることなく工学部同窓会の行方を見守っていきたくと考えています。よって会費は今まで通り毎年3,000円もしくは永久会員（事務局へお尋ねください）として登録をお願いします。

そしてこの法匠会報は工学部同窓会報発行にあわせ郵送しています。工学部同窓会報は前号第79号より会費納入者のみに配布となっております。同窓の皆様からのご浄財で成り立っていますのでご協力をお願いします。

工学部同窓会事務局 TEL 042-387-6385 FAX 042-387-6385

第45号 2010年5月1日

発行所 〒184-8584

東京都小金井市梶野町 3-7-2

振替口座 1-89264

TEL・FAX (042) 387-6385

法政大学工学部建築学科同窓会

発行人 岡本 眞

編集人 会報編集委員会

「ウォークラリー 2009」の報告



2009年度のウォークラリーは5月30日（土）に開催されました。

ウォークラリーも1992年に始まり、今回で18回目となりました。当初は「新入生歓迎ウォークラリー」で、卒業生が法政大学建築学科に新しく入学した新入生を引率して、東京の街並みや建物を卒業生が経験談などを語らいながら歩き、建築の楽しさを共に体験しようと企画した催しでした。一昨年から、実施された導入ゼミの正規の授業と位置づけられましたので、導入ゼミの先生が新入生を引率し、大学院生・学生と卒業生が協力して歩く企画になりました。初期の目的は充分生かされた、他の大学にないすばらしい催しです。

今年は152名の新入生を先生（13名）、学生、卒業生（25名）が、13コースを4～5人のグループに別れ、午後1時から東京探索を楽しみ、午後5時に市ヶ谷校舎のカフェテリアに総勢300名余りが集い、多くの感想報告があり有意義な懇親会となりました。その後、引率者のお酒の入った和気藹々の二次会を行い無事解散しました。

●2010年度のウォークラリー開催予定
2010年5月29日（土）です。

詳細は、法政大学建築学科同窓会ホームページに掲載されます。

楽しい出会いが期待できますので、OB・OGの方々奮って参加ください。

永田 八朗（'68卒）



同窓会ホームページ変更のお知らせ

同窓会ホームページURLが変更になりました。

新しいURLは、

<http://www.hosei-archi-ob.sakura.ne.jp/>です。

ブックマークをお願いします。

新年会 2010



平成22年1月27日(水)市ヶ谷キャンパスB.Tスタッフクラブにおいて教室、同窓会合同の新年会が開かれた。岩下先生、川口先生、古川先生など退職された先生方もお見えになり、卒業生や現役の先生方との久しぶりの顔あわせもあり、大変にぎやかな夕べとなった。

今年から建築学科は全て市ヶ谷キャンパ

ス・デザイン工学部展開となり、同窓会にとっても区切りの年となる。永瀬教授からは現工学部建築学科とデザイン工学部建築学科の活動状況、またお互いの学生間の交流の模様などの詳細な報告がなされ、同窓会からも多岐活動の内容と報告、

次期活動予定(参加募集PRも含めた)の発表と報告がなされた。(途中、歓談……)

最後に、記念撮影と、これからの建築学科の躍進及び卒業生諸兄の健勝を祈念して校歌とエールにより終宴となった。

終宴後は各先生・卒業生とで2次会へ繰り出した。

山田水城先生 逝く



恩師山田水城先生(法政大学名誉教授)は、入院加療中であった東京医科歯科大学付属病院(文京区湯島)にて平成20年9月10日未明(午前0時44分)突然逝去されました。

告別式は同月13日護国寺桂昌殿(文京区)にて喪主山田弘(ご令夫人)様のもとにしめやかに執り行われました。

同年8月には毎年恒例のかつてのオリンピック仲間とクルージングを楽しまれ、それこそ健康的に日焼けされた笑顔で面会されておられただけに、訃報は信じ難いものでした。

大学において要職を全うされたことは言うに及ばず、文武両道に加えヒューマンストの山田先生だけに、先生のご薫陶を胸に刻み込んでおられる同窓生も多かろうと思います。

なお、同年年末、山田水城先生は叙位叙勲：正五位瑞宝中綬章を賜られ、ご遺族と研究室卒業生を中心に勲章を囲んでの偲ぶ会を平成21年9月12日(土)に、山田水城先生出世作の「虎の門富岡電気ビル」にて済ませております。

遅ればせながらここに謹んでご報告申し上げます。合掌。

法匠ミニセミナー 2009 「民家は暮らしの博物館」

2009年11月20日(金)

法政大学デザイン工学部
田町校舎

講師：朴 賛弼 (Park Chanpil; パク チャンピル) (博士 '97卒)

参集者：同窓会及び日本民族建築学会等 40名

韓国における伝統集落や民家について自然環境および環境工学から調査したことまたその内容についての話しをしていただいた。

「現代の都会の暮らしはどこへ行っても同じように感じる。便利で楽な暮らしになっているのは事実であるが、今の暮らしの以前には先祖たちが長い歳月を経験しながら造ってきた暮らしの知恵があった。その地域の文化・歴史に基づいた暮らしの生き方があった。それが民家であり、古民家はパッシブ的な自然エネルギーを主にしたエコハウスであった。」



以下、韓国における伝統集落、古民家の調査結果から興味深い話しが聞けた。

- ・韓国に於ける伝統集落・古家屋の空間の特性の調査結果
- ・伝統民家 オンドル部屋・他の部屋の配置から温熱、風環境の実測調査からその地域の季節に対応した有効な冷暖房利用法があったことが判明し、まさにエコハウスであったこと。
- ・そして、現代文化と融合しながら、また建具や太陽エネルギーをうまくコントロールした伝統的民族建築を継承しながらの現代風の暮らし方(ソウル市内)を紹介とあり、興味深い話しは枚挙にいとまがなかった。

セミナー終了後、さらに近く中華料理店にて夜遅くまで質疑と懇親会がおこなわれた。

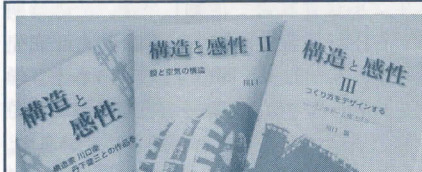


大江宏賞について

大江宏賞は、1984年建築家大江宏先生の法政大学工学部建築学科教授退任にあたりその記念事業の一つとして、その折の拠金の一部を基に実施することになったものです。2004年それまで拠金を管理してきた大江宏ゼミ会は、拠金のさらなる充実と運営の高度化を図るため広く同窓生有志に呼び掛け大江宏賞運営委員会を発足させました。委員会は受賞対象者を大学院での研究を修士設計で修了する者としてと決め、最優秀者に記念メダルを授与し副賞として30万円を贈与することとし、翌2005年漸く最初の大江宏賞受賞者を迎えることになりました。以来建築学科の先生方も指導に力を入れていただき回を重ね、今年3月には2009年度修了生発表による第6回の審査会を迎えようとしています。審査は、公開の講評審査で建築学科の先生方と運営委員会選出のOB3名の建築家で構成される審

査委員会が当たることになっています。

建築学科学部卒業生の半数近くが大学院に進学するなか、ここ数年は毎年計画系院生の20数名が大江宏賞を目指すようになってきました。彼らは学部生たちを制作作業に参入させながら、図面作製や模型制作に力を注ぎ、作品発表ではパワーポイントなどを駆使し、身体全体でのプレゼンテーションに挑むことになります。予め建築学科教室で数名に絞られた学生諸君の作品発表は、多くの学部生や同窓会会員も見守るなか、各審査員からの発言だけでなく審査員間の白熱した議論の数々や発表者からの反論などが交錯する極めて刺激に富



川口 衛著『構造と感性』1・2・3 刊行
(建築同窓会発行：送料込み各1,000円)

川口衛研究会での講演記録です。

■希望者は同窓会ホームページからお申込み下さい。振込用紙と共に送付します。



んだエキサイティングなものです。こうした場合は、受賞者や選に漏れながらも頑張り抜き悔しい思いをした院生だけでなく、聞き入る学部生諸君たちにも大きな勇気と新たな建築家への意欲をもたらし、建築学科の発展に大いに寄与するものと期待されています。

大江宏賞運営委員会は、昨年来建築学科教室有志の先生方も会員となっただき、卒業生委員と一体となり今後この賞をより意義のあるものに向け努力したいと考えております。

大江宏賞運営委員会 代表 猪野 忍
事務局長 加賀谷幸規
事務局 小島 建一、岡崎 浩司
吉澤 国男、二瓶 渉
鈴木 茂雄

法匠女性ネットワーク

第14回「総会」開催

若返ったメンバーで新たな活動を展開

2009年8月30日「総会」が鎌倉で開かれました

①今年度の活動

ウォークラリー参加、香取神宮見学と佐原町並み散策、法匠展参加、坂倉準三展と神奈川県立美術館鎌倉館の見学を実施しました。今後の活動として、東京ウォーターフロント（葛西臨海公園）見学、春季イベント：横須賀美術館見学を予定しています。活動は同窓会ホームページでご案内致しますので、どなたでもお気軽にご参加ください。OBの方も多数参加しています。

②幹事会メンバーが新旧交代

「総会」で幹事会のシニアOG3名は一線から退き、事務局2名も新メンバーと交代し、新しい体制で女性ネットワークは活

動する事になりました。若返ったネットワーク活動をご期待ください。また、シニアの番外活動も見学会等を単発的に行う予定です。こちららどうぞご参加ください。

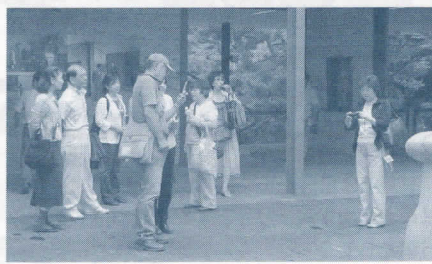


坂倉準三展と神奈川県立美術館 鎌倉館見学会

今年度の活動として、坂倉準三の代表作である神奈川県立美術館鎌倉館の建物を見学し、内部で開催されていた「建築家・坂倉準三展 モダニズムを生きる 人間、都市、空間」を観覧後、隠れ家的レストランを借り切って創作料理の昼食、その後、総会開催となりました。

蓮の花が見事に咲き誇る池の水面に浮かぶ美術館は軽やかで、どの角度から見ても空間のプロポーションは美しく、特に中庭の空間は居心地良く訪れる者をやさしく迎えてくれ、今日にあってますます新しい新鮮な感動を与えてくれたことに衝撃を受けました。坂倉準三展は没後40年を記念して、戦後の復興から高度成長期のなか数々の公

共建築から新宿ターミナル大都市開発などの生涯にわたる仕事を、手書きの図面、模型、写真等で構成した回顧展でしたが、建築家としての人間性、その偉業に改めて圧倒されました。そして、このように見学会イベントと一緒に総会を行うのも、なかなか良い試みと思いました。



女性ネットワークシニア 重要文化財指定 ブルーノ・タウト 熱海の家(旧日向別邸) 起雲閣見学会

紅葉もそろそろ終わりの頃、熱海在住の先輩の案内で、熱海の町に点在する別荘建築を見る機会に恵まれました。熱海には明治から昭和に至るまで、著名な財界人や文化人の別荘建築が多く建築され、優れた建築作品の幾つかは熱海市の管理の下、市民による観光ボランティアさんの案内付で公開されています。熱海の3大別荘と賞賛された起雲閣は緑豊かな広大な日本庭園を囲むように、大正ロマンが香った日本建築の母屋や離れ、日本・中国・アールデコ、英国チューダー調様式等の装飾を融合させた洋館が保存され、気品ある雰囲気を感じさせていました。

ブルーノ・タウトが日本に残した唯一現存する作品：旧日向邸は相模湾を眼下に望む高台に建っています。桂離宮に感動し、日本の文化と風土を愛したタウトは芝生の庭園テラスの地下に、海に開かれた素敵で離れを設計しました。ここは卓球などを楽しんだプレールームと階段状の床の間を持つ談話室、主人の居間からなり、室内は竹、檜、檜、和紙、畳、敷き瓦等の日本的な素材や障子、格子、床等のモチーフと色彩を用いて構成されています。しかし、決してそれは和の空間ではなく、凛とした知的で親しみある空気が漂っていて、何とも不思議な感動を覚えたのでした。

旧日向邸の隣に見つけたのは、4組しか泊まれない、ガラスと御影石とイタリアの家具からなる超モダンな隈研吾設計の豪華な割烹ホテル。内部を隅々まで見せて頂きました。

この度は熱海の奥深さを深く感じ入った見学小旅行となりました。

小川 かよ子（'67卒）



第13回 法匠展開催

2010年6月11日から15日まで、例年通り東京武蔵野市の武蔵野芸能劇場が会場です。

毎回、先生や卒業生そして学生の多士済々の皆さんが集り、昨年は最多の42人に上りました。研究室全員での参加があり、毎回必ず新人が加わり、卒業生の新たな出展が楽しみです。

学生の参加が増えており、この数年はむしろ世代が若返りしているのが、他の展覧会と違う所ではないでしょうか。

作品をつくり、出展する楽しさはもちろんですが、それ以上に楽しいのはここで誰かと

出会い、話が弾む事です。世代を超えての話は話題が尽きず、搬入日の展示作業を終えてからのオープニングパーティが魅力です。

参加者と様々作品も多彩です。絵画・陶芸・書・写真・彫刻などが会場いっぱいにあふれ、ジャンルを問いません。これも他の展覧会とは違う華やかさのある所です。

大江宏賞受賞作品を特別展示としているのも特徴で、第1回受賞から連続して展示しており、今年も実現すれば6回目の展示となります。

「こんな楽しい機会他にはない」を目指している法匠展です。気楽に参加ができる場です。

第13回法匠展・50

会場：武蔵野芸能劇場 2階ホール

(JR 中央線三鷹駅下車北口)

会期：6月11日～15日

搬入：6月10日夕方

搬出：15日夕方

連絡先：プラナーク設計内、近藤一郎

E-mail: kon-kn-1@mx4.mesh.ne.jp



小金井・市ヶ谷キャンパスから

2009年度 卒業設計公開講評会

公開講評会は、2010年1月30日(土)13時より、小金井キャンパスのマルチメディアホールにおいて開催された。工学部における最後の記念すべき卒業設計公開講評審査会である。次年度は市ヶ谷キャンパスに移り、デザイン工学部最初の同審査会となる。よって小金井校舎での使い納めであろう。

講評会の審査には建築学科教員、特別審査員として建築家の鈴木了二氏、卒業設計日本一展の中心人物/小野田泰明東北大学大学院教授、若手構造家である佐藤淳氏の3氏を招いた。

講評対象は、127作品の中から厳選された16作品。発表者は、壇上に図面と模型を運びこみ、ビジュアルなパワーポイントで作品をアピールした。特別審査員評で「法政大学の幅の広さを感じられ楽しかった」(鈴木)、「なぜそこにつくれるのかを十分に考えること」(小野田)、「構造のことは基本なので聞きましたが、こだわりは何かを」(佐藤)、そして大学院スタジオ担当の坂本一成先生は、「こんなことができたらいいですね。若さを感じます」など、そこには多くのアドバイスが含まれ、本人はもとより後輩達にも刺激のある記念すべき一日となった。



講評会の後、同校舎ファカルティクラブでレセプションを行った。先生方、同窓会、他大学を含む学年をこえた学生達が多数集まり盛況であった。ここで次の受賞者が発表された。

特別審査員賞 ■鈴木了二賞：蝦名達朗(渡邊)、小野田泰明賞：山中 元(陣内)、佐藤 淳賞：森川久美子(永瀬)

卒業設計賞 ■川西乃里江(富永)、渡部麻衣(永瀬)、和田智広(富永)、吉川典孝(渡邊)、蝦名達朗(渡邊)

この講評会は、建築同窓会や協賛企業によって支えられている。そして運営には、大学院生委員が参画、ポスターやプログラム制作、司会、会場設営など全てを担当し、院生パワーを発揮している。



2009年度 学外卒業設計展等 法大代表

卒業設計審査と卒業設計公開講評会を経て、次の学生が学外で行われる各種展覧会や出版物掲載の法政大学代表に決まる。

■JIA展：川西乃里江、蝦名達朗 ■日本建築学会：渡部麻衣 ■レモン画展展：吉川典孝 ■近代建築掲載：和田智広

仙台卒業設計日本一展で特別賞受賞

2008年度卒業設計巨大モックアップを仙台デザインリーグ2009に送り、卒業設計日本一展に法大生チャレンジ、527作品の中から大きく健闘しファイナルに次の2名が残った。大野麻衣さん(永瀬)、橋本健君(富永)。

そのうち大野麻衣さんがベスト5に入る特別賞を受賞した。作品は、「キラキラ=わたしにとっての自然」と題し、新宿区大久保の山手線沿いに図書館を含む複合施設を設計。セル・オートマトン「ルール30」によって有機的な模様を書架に、壁構造で変化のあるコミュニティ空間などを構成している。

橋本君の作品は、「人と都市の間」で反転がキーワード。住宅と余白の反転などを行い人工の丘に沢山の中庭を掘りこんだイメージになっている。

2009毎日新聞DAS賞に大塚知明君が一位、中山佳子さんが入選。5年連続法政快学

大塚君(永瀬)の卒業設計「Blinding Lights」が第41回の表記商業部門で第一位を獲得した。作品は都市の新しいランドマークとしての商業建築=デパートの提案である。動きや色彩で人の興味を引く表層とは何かなどに挑戦している。

中山さん(渡邊)の作品は、「Porous City- 神田でいきること」と題した高層の住宅、オフィス、店舗ビルである。この毎日DAS賞には2005年の広島卓郎君(永瀬)、2006年榎本尚信君(古川)、2007年坂本孝樹君(陣内)、2008年宮坂伸平君(永瀬)に続き5年連続受賞である。

2009年度【春】

デザイン工学部建築学科・大学院工学研究科新入生入学

4月3日(金)日本武道館において2009年度の入学式。桜の花に祝福されて建築学科152名、大学院修士52名、計204名の新入生が入学しました。学部新入生とは5/30(土)の午後、教員・OB・院生・学部生と共に都内の建築を見て歩くウォークラリー、そしてゴールの富士見坂校舎で300名を超える大交歓をみました。

新大学院開設記念イベント「フトゥリズム」開催

9月19日(土)から26日(土)にかけて、法政大学大学院デザイン工学研究科開設記念の行事として3科共同で、エンジニアリング&デザインウィーク2009年「フトゥリズム-未来派のデザイン」が開催されました。

9月26日には建築学専攻主催で「未来都市ヴィジョンの100年-イタリア未来派から日本、東アジアの現在まで」と題され、国内の大学に加えて、フィレンツェ大学からも教授を招聘してのワークショップが行われました。

イタリア未来派と、日本の建築運動、さらに東アジアの都市問題の未来に渡る白熱した討議が行われました。



新任に下吹越准教授



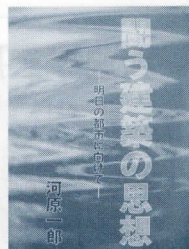
2009年4月より新任教員として兼任講師であった下吹越武人(しもひこし たくへ)氏(A.A.E代表)が、准教授として就任した。横浜国立大学大学院修了、若手建築家として数々の賞を受賞、活躍中である。担当は、デザインスタジオ2,3、建築フォーラム、インターンシップ(建築)、導入ゼミナールなど。計画系、デザイン関係のパワーとなることを期待します。

「茶谷先生お別れ会」

2008年に逝去された法政大学元教授の茶谷正洋先生を偲んで、2009年4月4日(土)東京工業大学百年記念館で「お別れ会」が開催された。展示会、映像投影と思い出の話が各氏からあり、関係者、東工大、法政のゼミ生など多くの方が先生を偲びました。

「河原先生を偲ぶ会」

2008年6月に亡くなられた法政大学名誉教授河原一郎先生の一周忌にあたり、6月25日(木)に「河原先生を偲ぶ会」がアルカディア市ヶ谷で開催された。2部構成で行なわれ、一部は偲ぶ会、二部はリレートークで河原先生の残した文章をまとめて著作とした私家本『聞く建築の思想』、この日に向けてつくられたものである。章ごとに関係諸氏が解説をしながらリレーでトークを行い故人を偲びました。



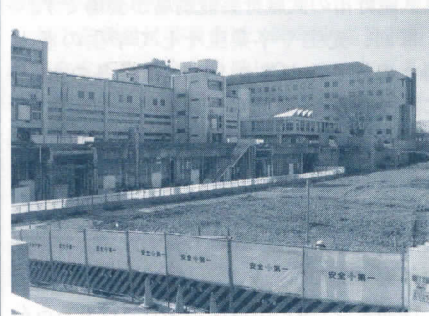
「山田水城先生を偲ぶ会」

山田水城先生を偲んで9月12日(土)虎ノ門にある山田水城先生設計の富岡電気ビル「レストラン立山」で開催された。

多くの山田ゼミ生、関係者が集まり、懐かしい映像が写される中、その時々のお話があり故人を偲びました。(関連記事p.2)

夏休みのインターンシップ「建築実務実習」希望者多数。卒業生の協力に感謝

8月~9月半ばにかけての夏期休暇を将来のために切磋琢磨しようと3年生を中心に「インターンシップ建築(元建築実務実習)」があった。同窓生の協力大である。(担当：渡邊・永瀬・下吹越)。



工事中小金井校舎